

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市子育てふれあいプラザ若林		
2 指定管理者	せんだいファミリーサポートネットワーク・冒険あそび場せんだいみやぎネットワークグループ		
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和5年度 27,203人(前年度比 184.5%) 内訳 ひろば:25,796人 託児:1,407人 ※視察等:426人 令和4年度 14,748人 令和3年度 9,611人		
	《事業》 乳幼児親子の交流の場の提供、一時預かり、子育てに関する情報収集・提供等、子育てを総合的に支援する事業 子育てに関する事業を行う者(子育て支援活動団体)に関する事業、中高生に関する事業		
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 26,321千円 (27,005千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)		
	《収入》 ・ 使用料収入 3,514千円 (2,639千円) ※託児収入 ・ その他収入 51千円 (23千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 ・意見箱の設置 ・イベント参加者に対してアンケートを実施		

## 二 管理運営に係る評価 (モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ法人が指定管理者となっているのびすく仙台との合同会議を年2回実施し、法令・服務規律遵守、職場倫理、施設の設置目的などについての研修の時間を設け、理解を深めている。</li> <li>・法人事業として父親講座の開催やホームスタートを行い、施設目的の「子育てが安心してできるまち」の実現に一層の貢献をしている。</li> <li>・一時預かり、イベントなど先着順での申込受付は、対象日毎に予約票とバインダーを用いて管理し、どの職員が対応しても公平・公正に対応できる体制を整えている。</li> <li>・のびすくでのイベントが定員を超えてしまった場合は、利用希望者の目的が少しでも達成されるよう、他館で開催される同じイベントや、類似の内容を扱う区の家健康課、保育給付課等の事業を案内している。</li> </ul>	21/21
II 施設の運営管理体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各職員が互いの配置と業務内容を適切かつ簡単に把握できるよう、シフト表には共通の記号を用いた記載を行っている。</li> <li>・業務内容ごとに2～3名の担当者を置き、OJTを行いながら業務を行っている。これにより複数の視点で確認ミスの防止につなげている。</li> <li>・館内の遊具や設備は専用のチェックシートを用いて毎月安全確認を行っている。</li> <li>・複合施設であることを生かして棟内のほかの機関と年2回安全パトロール、避難訓練を実施し、事故防止や災害対応に対する意識を高め合っている。</li> </ul>	30/30
III 施設・設備の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・警察と連携した不審者対応訓練では、打ち合わせ内容になかった抜き打ちのシチュエーションにも対応し、より実践的な訓練とすることで、職員の警備意識を高め、安全な環境の確保につなげている。</li> <li>・レジや鍵の管理は館長を中心とした限られた職員で行い、リスクの低減、管理体制の明確化を図っている。</li> <li>・個人情報を除いた裏紙利用、段ボールを用いた手作りおもちゃの作成など、環境に配慮した取り組みを行っている。</li> </ul>	19/19
IV サービスの質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひろば、一時預かりに関するマニュアルは、受付となりの棚に設置し、必要な時にすぐに確認できる体制を整えている。</li> <li>・区の家健康課による育児教室や新米パパママ講座に参加し、施設の広報を行った。教室・講座の終了後には、そのまま区役所から施設に案内し、見学をしてもらうこともあり、これをきっかけとした新規利用者も多い。</li> </ul>	28/28
V 施設固有の基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に恵まれた施設の特徴をいかし、法人のプレーリーダーによる外遊びを週3回行い、乳幼児親子の自然とのふれあい、地域住民との交流を実現している。</li> <li>・利用料徴収等経理に関する書類は法人で管理を行っている。施設では必要最低限の小口現金のみ管理し、指定管理料の適切な執行につなげている。</li> </ul>	9/9

### 三 評価総括

《指定管理者（せんだいファミリーサポートネットワーク・冒険あそび場せんだいみやぎネットワークグループ）による自己評価》
<p>新型コロナの5類移行後は利用制限を解除して運営。来館者数は月を追うごとに増加した。職員は、親子を笑顔で温かく迎え入れ挨拶や日常会話などを通して身近な存在となるよう努めた。遊具や設備の清掃や安全点検を定期的実施するなど、利用者が安心して過ごせたことで高い満足度につながった。</p> <p>ふるさと広場や木ノ下公園でのおそとのびすくは、四季折々の豊かな自然に触れながら子どもたちが自由に遊び、親も心を解放し職員に子育ての相談をするなど、プレーリーダーとひろば職員が、子どもの遊びと親支援の両面からサポートした。リピーターも増え、地域住民との交流も生まれ、外のひろばとしての機能を果たした。</p> <p>イオンスタイル仙台卸町と協力し、10月から月に一度、店舗内で乳幼児親子の交流の場を開いた。商業施設の利便性ととのびすくに対する安心感から、施設に足を運ぶことが難しい地域の親子が多く参加した。日中子どもと二人きりで過ごし孤立を感じていた母親たちは、職員との出会いに期待しており、継続的な開催を喜ぶ声が多数聞かれた。</p> <p>若林区保健福祉センターの保健師による育児相談を定期的にひろばで実施。子どもを遊ばせながら気軽に相談できることが保護者のニーズに合い、行政と協力して乳幼児家庭を支援した。区のプレパパママ向け講座や育児教室に職員が出向いて情報提供も行き、のびすくの見学や継続的な利用につながった。</p> <p>一時預かりは、育児疲れによる親の心身不調が理由で、ひろば相談や保健師から勧められて利用した方も多かった。必要に応じて職員間で情報を共有し、相談員が継続的に見守り関わるなど連携して受け入れた。</p> <p>相談事業では職員が身近な話し相手として気兼ねなく相談ができる存在となり、発達や育児疲れ、保育所入所等、悩みや困り事を丁寧に聞いた。行政の支援や地域資源などニーズに合った情報提供を行い、利用者自身が主体的に支援を選択し、つながるよう伴走した。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>ひろば事業では、利用者の不安解消のため、掲示物の色使いや配架物のレイアウトを工夫し、分かりやすく子育て情報を提供している。ひろばの利用時に子育てに関する相談を寄せられることも多く、必要に応じて講師によるイベントへの参加案内や、のびすく子育てコーディネーター（NoKoCo）への引継ぎを行っている。また、地域の公園や市民センターに出向いて事業を実施し、普段はのびすくに来館することがない乳幼児親子や地域住民に対し、のびすくの周知案内や子育て支援に対する理解を得られるよう働きかけを行っている。</p> <p>一時預かり事業では、わかりやすく丁寧な説明を行い、保護者が安心してスムーズに預けることができるように努めている。育児疲れや心身の不調から、NoKoCoの相談や家庭健康課の保健師からの紹介で利用につながったケースもあり、支援者間での連携を続け、利用後のフォローも行っている。利用に対する抵抗や不安を和らげるため、預かりがない時間帯では、ひろば利用者に声をかけ、託児室見学を行っている。</p> <p>また、複合施設内の設置である利点から、七機関連絡会における各機関の情報共有、施設の点検等より、利用者に対する区内の多様な情報の提供、安心安全な施設環境の整備を行っている。令和4年度からは地域の支援団体からなる「子育てサポネットわか隊」の運営を開始し、地域の全体の子育て支援体制の充実を図るため、支援者同士の情報交換や研修を行っている。</p>	<p>S</p>

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

© 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども家庭部子育て応援都市推進課